夕刊 磐城新聞
一月二十六日發行
日曜祭日翌日休刊

日本に於る農業の重要性及農村人に告ぐ

早大政治經濟科 中村正夫

二

農産物例へば米麥野菜等の年産額十、五四億及農村の一大副業たる養蠶の年産額四、五億圓、而も人口の四十八パーセントが從事して居る農業に對して、工業は昭和三年の統計に依れば年額七十四億圓の驚異的大數字を示すに至り、現在に於ては尚多額の增加を見て居る事は言を俟たないであらう。此等工業に依つて農業の不足を補充して居るのである。而して我が國の人口は明治初年以來急速に增加し、明治初年は二千餘百萬人たりしが、現在は內地のみにても六千萬人の大人口を有し、最近十年間の統計を見るに、年々八十萬乃至百萬人の增加を認められるのである。一方農業方面は人口に比例して發展せず、既に限られたる我が國の耕作地は今日殆んど全部新作し盡さるゝに至つた狀態である。此の人口增加の現象つて人口問題、或は食料問題等が當然吾人の目前に現るゝに至つたのである。我が國人口問題の唯一の解決方法たる移民も今や諸所に於て禁止、或は制限を被りて其の海外發展も望む所が少くなり、殊に最近南米ブラジルに於ても此れが制限法の設けらるゝ等の問題の生ずるにいたりて、全く此の方面の光明を失ふの機會にするの止むなき狀態にいたつたのである

斯の如く我が移民が隨所に排斥を受くるには種々なる原因もあらうが、我が國民の海外移住に適當せざる事も又一つの大いなる原因をなす物と考へられる。今其の二三の原因を述ぶれば

（一）日本人の國民性は其の性質上移民には適合せぬ。

（二）日本人は永住せず財産を得ると母國に歸る。（三）日本本土は風光明媚氣候快適なるが故に住心地良く他の氣候のきびしい地方に移住する事を欲しない。（四）東亞に於ては日本勞働者の生活標準が高く、朝鮮滿洲の勞働者に對抗出來ず一方米國に於ては彼の地勞働者の生活標準に比して反對に低級であつて、米國人の此れが對抗は不能である、故に日本政府及國民は産業を開發して人口を養はんとして居る。一方世界的躍進をなしつゝある我が工業と農業の關係を考察するに、其の原料の殆ど凡ては外國より輸入せらるゝと云つても良いであらう

唯僅かに農村副業たる農業より供給せらるゝ生糸の輸出及生糸製産品の海外輸出とも成りて、我が國工業の原料品とも云へるのである

磐城歌壇

新妻久滿夫選

『雜詠』 渡邊直子

○陽にけぶる遠き靑葉の松の森、夕づく頃は紫に見ゆ

○つれなかりし人にしあれど何がなし、逝きしとき〻て心暗き宵

○さりげなく險しき言葉き〻居つゝ、池の靜寂につぶて投げ見し

○嫁ぎたる姉も來りて久々の、話にぎはふ祭の今宵

○寢みだれの吾の姿よ朝の戶を、細目に明けて初雪を見る

○山の背の盛り久しき山茶花に、夕映寒くかたむきにけり

寸評 以前の歌よりは整つてゐる樣である。第一首『陽にけぶる』と第五首『寢みだれの』並に第六首の『山の背の』歌は題材もよし。殊に第五首等は整つてゐる歌で二句で切つたあたりも成功してゐる。なほ右の第一、第六首は表現上の不注意から印象にそぐはないものとなつてゐる。再考を要する。

二月題詠

梅。よろこびの歌。（數に制限なし）

締切一月二十八日

磐女校友會誌から かをり

八幡樣の祭り

一年 馬目英子

十四日、十五日、待ちに待つた八幡樣のお祭もいよ〳〵私等の所に樂しくやつて來た。私等は、十四日の日は普通の通りに勉强したやがて翌る朝の十五日、いよ〳〵參拜の日となつた。私は今日も何時もと同じく學校へ來た。やがて校庭に出て皆に朝の挨拶をした。皆の心は喜び一ぱいなのか挨拶までも元氣で、私の胸を躍らせた。そのうち朝會も始り、先生からいろ〳〵と今日の參拜についての御注意を受けて、いよ〳〵八幡樣へと出發した。先づ境內に着くと今までわく〳〵として居た私の心も、何とはなしに心の底まで淸らかになつて來た。八幡樣のまはりには何百年、何千年ともたつた樣に思はれる大木が繁茂してゐるし、お宮の屋根にはもう餘程前から集をくつて居たやうな大蜂が、もや〳〵と私達の姿をぼんやりと眺めてゐる。やがて神主さんの祝詞をきいた。道の兩側はうるさい程のお土産屋ばかり、あつちからもこつちからも、元氣のよい聲『いらつしやい〳〵』私はしばらくその事に氣を取られてぼんやりと立ちつくして居た。そのうち氣がついて見ると、もうまはりには女學生は見うけられない。私はあわててその場から早めに足を走らした。さうして歸りには平陽女學校のバザーを見た。中の大分は女學生であつた

▽▲―――△◇ ◇◎―――◎□

潮聲硯靜抄帳

課題吟

秋の風 渡邊何鳴選

秋風に尾花ひかれる堤かな 松堂

降りそゝぐポプラ病葉秋の風 水明

秋風や公孫樹散り散る石段に 枯萍

長女ハシカに罹つて

枕邊に來る蠅追ひぬ秋の風 鷹子

○同上 今井淑水選

天（賞選者筆賛知冊）

池の塵絶ねず動きぬ秋の風 一來

地（賞同上）

秋風に鷄が押されて步りきけり 武門

人（賞同上）

荒壁の土ぼろ〳〵と秋の風 文狂

新年感（羽子、手毬十句）

平屋子

昔風の庭に子どちや毬つける

遣羽子や結ひたての髮を氣にしつゝ

つく羽子の音に澄みゆく日和かな

手毬つく子らよ寒げくたそがるゝ

高羽子や夕月見ゆる屋根の上

母の唄に嬉しよはづむ子の手毬

せがまれて羽子つく母の上手なり

ボンコ下駄の音にはしやぎぬ羽子つく子

それ毬を追ひかけて見る仔犬かな

嶺に雪見ゆる都や羽子

日

1月27日 △青森第五聯隊の將卒二百餘名雪中に遭難す（明治三五）△出羽海軍大將逝去（昭和五）△アメリカのフォード工場無期限に閉鎖す（同八）△フランスのショータン內閣總辭職（同九）

1月28日 △青森大雪大震大火（明治三）△加藤高明伯逝去（大正一五）△上海の日本陸戰隊支那軍と戰鬪開始（昭和七）△古市公威男逝去、享年八十一（同九）

その日〳〵

○

早春――といふのにもまだ早いけれど、なんといふけふ一日の靜けさだらう!

講談 戶隱奇譚 山の怪秘 (94)

丸山寬雄作 眞木浪畫

小諸から淺間 （二）

『ねえ、どうしませう。何時あとを追かけてくるか判りやしない』

『ともかく、この分では悠長に街道を上れなくなつたな。かうと……』

瀧之丞と、姉の吳葉は、この小諸の宿の二階で、憂はし氣に、ひそ〳〵と囁き合つてゐる

『今、思ひ出すが、さういへば、あの川中島の渡船場で、俺達が船に乘り込むとき、ちつと立つて見てゐた浪人ていの男と、伴れの女があつた。ひよつとするとあの時から俺達をつけてゐたんだな』

『それにしても、坂城の宿場で立合つたときあの蛇投げの馬鹿はほんとにいゝ事をしてくれたよ。お蔭でこゝまで逃げ延びることが出來た』

瀧之丞は脇息に兩腕を組みながら、もたれかゝり、吳葉はその前に腹ばひになつて銀煙管へ煙草を詰めながら向ひ合つて話し込んでゐた

二人は、あの坂城の宿場茶屋で刈馬平七郎に不意打ちを喰らつたが、首尾よく隙を見てこゝまで逃れて來たのだつた。二人は今度[illegible]、金の重寶なことを知りその價値が判つたことはなかつた

はじめ瀧之丞が、平七郎と立合つてゐるとき、吳葉は場所柄、事態が面倒になることを考へ隙を見て奧の帳場へ駈込んで、幾つかの小粒を出し、主人に救命を願つたのだつた。主人は金の光りに眼が眩み早速折から二階に引入れて、これも何かと黃金政策を籠絡してゐた宿役人に賴んだ。そこで折觀の平七郎の追ひ討ちも中折に終つたのである。この際に瀧之丞と吳葉は宿の裏から逃れ夜駕籠を雇つてその夜の深更にはこの小諸まで逃げ延びて來たのだつた

で、今は朝。明るい朝である

二人とも身邊に危險を覺えて來たので昨夜おそく就寢したのだつたが、今朝もそんなわけで早く眼を覺し今日の方策に耽つてゐたのだ

瀧之丞の考へではもう絕對に平七郎と立合つては不利だと思つた。隱れられるだけ隱れて早く江戶へ着くことだ。これより他に道がないと思つた

そこへ宿の女中が朝飯の猫脚膳を器用に重ねてとん〳〵上つて來た。二人はこの定りきつた足音にも反射的にギクリとなつた

恰度その時、この宿の向ひ側の茶店から出た上背のある駕籠屋があつた。岡庭典膳の變裝姿である。典膳[illegible]川中島で刈馬平七郎を水葬したものと確信して伴れの女お豊を誘ひ、これを追分宿の遊女屋へ賣飛ばす話が定つたので瀧之丞、吳葉の駕籠と相前後してこの街道を上つて來たのである

そして恰度、昨日坂城の宿に休んでゐるとき、渡船から水葬した筈の刈馬平七郎が瀧之丞と立合つたのを眺め不思議さに驚いたが、早速平七郎が尼僧妙心に伴れられて入つた野寺の樣子を窺ひ、これを瀧之丞兄妹に密告してやらうと、その駕籠の跡を追つて來たのだつた

胸に一物ある岡庭典膳は旣にこの小諸についた時この宿の駕籠屋を雇つて追分宿の遊女屋へお豊を運び去つてしまつてゐる

典膳は旅籠屋の入口に立つた

『おい番頭さん、まことに濟まねえが、昨夜遲くおつきになつた夫婦伴れと覺しい二人の客が居る筈だ。少し話してえことがあると取次いでくんねえ。俺は街道駕籠屋の仙助てえものだ』

その口振りがまた板につかぬところがある。番頭は今日の道中の打合せかと思つて大して怪しみもせず二階へ上つて行つた

◦◦◦◦白鳥君除隊歸郷 平町鷹匠町白鳥謹一君は仙臺輜重第二大隊を除隊明二十七日午着午後零時四十三分で歸郷する

◦◦◦◦河村敎諭除隊 磐中敎諭河村饒氏は昨年一月來濱田二十一聯隊に入營中、此程除隊昨二十五日歸任した

◦◦◦◦磐女寄附 磐女では既報の如く銀紙蒐集中であつたが約四貫匁纏つたので之を金に代へ平町役場共濟會に寄附した

舊歲末賣出福引當籤者（二十五日） 特平町住吉樓、1內郷村馬目酒店、2同上、豐間村小松景春、玉川村齋藤みつ、平町小谷野

武井河川課長視察 內務省土木局河川課長武井群嗣氏は東北六縣視察の途次今廿六日來平、附近各河川を視察した

◦◦◦◦三等局長會 東部三等局長第二區會は明二十七日午前十一時より平局樓上吏員宿直室に開催

◦◦◦◦四家所長歸廳 娘身賣救濟に田村山間部行脚中だつた四家平職業紹介所長は今二十六日夜歸廳、明後二十八日からは同所神長倉書記が雙葉郡方部に向ふと

舊十二月廿三日 曆 癸卯 佛滅 滿 昴宿 新 一月二十七日 日曜

諸判定應需 東京市本鄉區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神讃館

▲一白の人 快く仕事の捗る日但し飮食には注意すべし▲二黑の人 先見の利かぬ日新規の事には手を出す勿れ▲三碧の人 暗々裡に厚情を受けて事業發展し行く吉日▲四綠の人 過分の望を起さず營業に滿足すべき日▲五黃の人 報ひは少くとも勞苦を厭はず自ら勵むべし▲六白の人 氣紛みより大事を取ることあり世話事注意▲七赤の人 物事永くとも心を緩めず勵めば必ず成る▲八白の人 月も滿れば欠くる何事も八分に滿足すべし▲九紫の人 惱みもあれど努力によりて吉日と成るべし

舊十二月廿四日 月曜 甲辰 大安 平 畢宿 新 一月二十八日

▲一白の人 心の緩みを抑制し且つ交際にも注意すべし▲二黑の人 時折り不安に襲はるゝともたわまず勵むべし▲三碧の人 足もとに付けつゝ進むが安全なるべし▲四綠の人 無理をすれば破れを生ず口入ことも注意▲五黃の人 表面美に捕はれ易し人の世話事は大凶なり▲六白の人 そろ〳〵良氣運に向ひ來るべし急ぐなかれ▲七赤の人 自重して進めば大吉横車を押せば失敗あり▲八白の人 平和を主とすれば諸事順調に運び行くべし▲九紫の人 一くわく千金を夢る時は屋根もはぎ去らるべし

二十七日（小名濱測候所調査）
日出 六、四二 月出
日沒 四、五八 月沒前一〇、〇一
滿潮前八、一〇 後九、二五 干潮前 一、四五 後 三、一五

二十八日
日出 六、四一 月出前 〇、一〇
日沒 四、五九 月沒前一〇、三三
滿潮前 八、四〇 後一一、二〇 干潮前二、一〇 後四、三〇

廣告

天下一品マヅイ 素人料理おでん 榮ちやん 花ノ里 新田町

美味で評判の イワキサロン 平町電三五二

株式賣買、債權取立 合資會社 三共商事 平町大町電三六〇

鑛業株賣出
第一鑛業（金額拂込）
三東鑛業（金額拂込）
御報次第店員參上詳細御說明致シマス。
公社債株式現物賣買 角治株式店 福島縣平町田町五四 電話七三番

福は內會……會員募集
二月四日（舊正月元日）
午後一時修祓、一時半家內安全祈禱、二時豆蒔執行、二時半世話人祈禱札、並に福豆を分配す。
▲會費二拾錢 御祈禱札大…一圓 小…五十錢
▲年男御希望の方は金五圓納付の事（大祈禱札、福豆、福桝、紅白餅、記念盃並に本膳付）
◎會員には家內安全祈禱の御札及福豆、御神酒を差上ます。尙十人一組の割合にて一組の內へ金体大黑天一個を授く
事務所 平町紺屋町 扇屋旅館內 電話一六五番

流行ノ下駄下草履ハドコヨリ安イ 南町 三井ハキモノ店（小僧サン入用）

星一先生
歐米歸朝歡迎茶話會

一、鄉土の大先輩星一先生昨秋十月三十五日橫濱出帆紐育に於て大成功裡に國産キニーネの生産及び輸出に關する商談を完了の後、伊太利、佛蘭西、英吉利、獨逸蘇聯邦、滿洲の各國を歷訪して出發以來六十五日目の舊冬三十日無事歸朝致しました。

二、今回この國家的事業完成に就いてしたしく祖先に報告すべく展墓の爲め二月六日出生地錦村に參ることになりました。就いては此際新しき重要國産品の生産と其の海外雄飛に對する先生の勞を犒ひ、且つ輝やかしき成功を祝福致度又先生の歐米視察談を聽くべく左記の如く歡迎茶話會を開催致します。

當日は正午後五時半開會、七時終了の豫定で御座いますれば何卒御繰合せ御臨席賜はり度此段御案內申上げます。

一、日時 二月六日午後五時半（舊正月三日）
一、場所 平町四丁目角 マルトモホール
一、會費 金五十錢

發起者 星一先生後援會

追而 廣告を以て通知にかへます。會場準備の都合も有りますれば御返事相煩し度願上ます。

申込所 ホシチエンストアー平支部 ホシ藥舖 平町三丁目三〇 電話四二九番

土地提供や免稅など 左樣な事に關心は無い

津田鐘紡社長の世界的談話から 誘致の前途を占ふ青沼町長

最近平町で寄ると障ると話題の種となつて居る鐘紡工場誘致問題に關し、青沼町長が歸來早々の談話を補足して語る處によれば

津田社長は、從來斷片的に洩らした自分の話により各方面から猛烈な運動に來られ些か面喰らつて居られる模樣であつた、同社の企業は一地方の局部的問題で無く旋て全國的世界的のものであり、政府によつて行はれてる現在の二階から目藥的の農山村救濟施設から遙かに進出して實際的救濟の實を擧ぐるを目標として居るので、隨つて誘致の條件として竝べられる土地の提供、稅金の減免と云ふ樣なケチな事には何等の關心を持つて居無いとの事であつた、電力料の輕減は相當考慮の內に入れて居るらしいが其れよりも先づ深刻な農村救濟を眼目に信州へは松本、上田、丸子の三ヶ所に絹糸紡績を決定したらしいそれから單に紡績許りで無く、繭量の約九割を占むる蛹を石鹼等に生產し當分諸外國へ無料で提供し機の熟するを見て販賣する事や之を食料に供する事なども研究中との事で豫定事業の輪廓は非常に宏大なものの樣に聽かされた、何れ社員場合によつては社長自ら縣下を視察されるとの事であつたから何とか之によつて當町への誘致が好轉すれば良いと祈つて居る。云々

少年劍道會 參加十校五十名

平、植田兩武徳會主催第一回郡下小學兒童劍道大會は既報の如く來月十日第三小學校で開催、參加左の如く尋高八校計五十名で新調の優勝旗をめぐり熱戰を期待されてゐる

（尋常）平第一、同第三、好間

（高等）平第一、好間、高久、豊間、玉川、植田、草野

內鄕校增築 あす竣功式擧行

內鄕村では曩に內町、宮、高坂の三校を通じ十六學級を增築中であつたが此程愈々竣功したので明二十七日午前九時各校兒童五千八百名が旗行列で繰り込み盛大な落成式を擧ぐると

飛躍的の預金增加 宮城銀行の今期成績

元七十七銀行平支店長として縱橫の敏腕を揮ひ地方金融界の爲貢献した山田勇太郞氏が常務取締役たる株式會社宮城銀行でも同日午後一時より仙臺市元寺小路同行樓上において株主總會を開き、昭和九年下半期決算並に左記利益金處分案（配當年二分五厘）を附議原案通り可決した（單位圓）

當期純益金	六、六七二
前期繰越金	七、〇二四
合計當期利益金	一三、六九六

これを處分する事左の如し

法定準備金	一、二〇〇
別途積立金	一、五〇〇
株主配當	三、六六七
後期繰越金	七、三二九

なほ同行の預金總額は二百五十萬圓に達し、昭和六年の創立當時に比すれば倍額となり、今期は前期に比し二十三萬圓、前年より九十萬圓の增加、特に東一番丁支店において素晴らしい成績を擧げてゐる

若松、郡山を凌ぐ 平町の貯金高

一人當りでは縣下一

平局に於ける昨年度中の郵便貯金は預入六七、五一六口、一、五〇四、九五五圓 拂出二二、九三八口、一、六三六、一八八圓で福島局より預入三五三、二二七圓 拂出三四六、三六六圓少いが、若松局よりは預入八七四、八二三圓 拂戾九四一、四三七圓、郡山局よりは預入二二九、六五二圓、拂出五三三、九九五圓を斷然リードしてゐるが、市內外人口率に見る時は福島の預入一人當二七圓弱に對し三一圓弱に當り縣內一位を示して居るが、之は當地方住民には割合に他鄕人が多い結果ではなからうかと觀られて居る

平自營會保護件數

平自營會は明治四十三年九月創立以來二十五年幾多の免囚に溫き手を差し伸べ成績を擧げてゐるが昨年中取扱つた之等釋放者及び起訴猶豫者に對する保護件數は收容保護九十四名（內女一名）延人員千四百四十四名（內女二十五名）釋放後間接に保護を加へたもの七十七名（內女一名）延人員六千七百九名（內女一名）出監時一時保護、一時收容五 保護者渡し四十七 職業斡旋十 衣類金錢等給與一 親族へ同伴一 停車場同上二十八（內女一） 旅費衣類貸與四十等で創立以來の間接保護は延人員二萬五千六百四名（內女三百四十五名）の多數に上つてゐると

。。。。窪田劇場復活 過般燒失した勿來町窪田劇場は工費五千圓で新築する事になり目下着々準備中

今期配當年四分

愈々堅實を示して 隆昌を辿る七十七銀行

前頭取伊澤平左衛門氏他界の後を受け大庭現頭取就任後も引續き益々行運の隆盛を示しつつある仙臺市七十七銀行では昨二十五日午後一時より同行樓上に株主總會を開き、昭和九年下半期決算並に左記利益金處分案（配當年四分）鹽釜支店合併の件を何れも原案通り可決役員改選の結果は十一名全部再選重任と決定、平支店も一段の堅實味を加へて居る

（單位圓）

當期純益金	二五一、四四〇
前期繰越金	八六、六四四
合計當期利益金	三三八、〇八四

これを處分すること左の如し

法定準備金	四〇、〇〇〇
任意準備金	六〇、〇〇〇
行員退職給與資金	三五、〇〇〇
配當金	八八、一二七
後期繰越金	一一四、九五七

學校敎練查閱

磐中及び平商の學校敎練查閱は既報の如く明二十七日（平商）及び二十八日（磐中）二日若松第二十九聯隊長齋藤大佐により執行されるが第二師團參謀將合其九郞中佐は查閲見學のため各日臨席すると

。。。。。巡回診療日割。 郡下の本年第一回巡回診療日割は左の通り決定した

二月十一日鹿島、十二日川前、十三日永戸、十四日箕輪、十五日荷路夫、十六日貝泊、十七日石住

男も自殺未遂 年增酌婦の片割れ

旣報—前途を悲觀し一昨廿四日自殺を企て未遂に終つた湯本町字向田料理業佐藤イノ方酌婦一條ツネ（四二）の馴染男、磐崎村下湯長谷カヂ職太田原國松（五〇）も女の前借九十圓を工面出來ぬを苦に牒し合せた同時刻に前記料理屋裏物置に於て縊死せんとした處をこれ亦通行人に發見され思ひ止まつた

。。。。山本孃高師合格 磐女昨春卒業山本マサ孃（元磐中敎諭英作氏三女）は過般行はれた東京女高師文科の入試に合格した

怪ルンペン 隙見し歩く 平署で取調べ中

昨二十五日午前五時頃平町仲間町の各戶を隙見し步く擧動不審の男が附近民に發見されるや直に同町北裏の竹林に入り込んだので區長たと靑年團員等が追跡する一方直に平署に急告、署員の手をかり間もなく取押へ目下同署で嚴重取調べ中であるが此奴は相馬郡原の町東新田生れルンペン井坂廣（二四）で一昨年窃盜罪で盛岡少年刑務所を出獄すると各地をぶらついてゐたもの

修養會員研究發表

平三小學校職員よりなる修養會では今二十六日午後二時より第二校講堂に開き會員九十餘名出席左記の研究發表あり後餘興に第二校米本訓導の尺八獨奏及び福引等あり同四時半盛會裡に閉會した

『日本的敎育の一考察』第一仲村、『地理敎育に就いて』第二米本、『修身に關して』第三新家

。。。。井坂組頭表彰 湯本町消防組頭井坂千代松氏は去る十四日頃同町吹矢志尾崎猛（二七）が前後三回に亘り隣家に放火した折何れも直に發見消し止めた廉により今二十六日横山刑事協會支部長から表彰狀を贈られた

橋諸共自動車墜落

昨日草野村六十枚で 幸ひ乘員無事

昨廿五日午後零時半頃平町松崎自動車部貨物自動車が豆を滿載草野村六十枚橋（延長約六十間）の中頃を通過中轟然たる音響と共に約五間程の橋と共に河中に墜落幸ひ死傷なかつた、同橋は特殊開閉橋で近く夏井川附帶事業として改修されねばならぬ筈の危險橋であつ

。。。。。磐崎村歲末救濟 磐崎村では歲末貧困者救濟のため過般來村內より同情米を募集中の處此程纏つたので近く施與するが、救濟數は六十世帶、一人當り五合で約一石四斗であると

苦學力行の馬目氏就職

磐崎村出身馬目太平氏（小名濱町生、磐中第二十五回卒）は磐中卒業後勞働苦學して東洋大學を卒業、兩三年添戶小學校に代用敎員として勤務昨年十月渡滿、菱刈大將の斡旋で此程滿洲國熱河省承德の敎育廳長に就任した、氏は當二十九才、將來を囑望されてゐると

製藥王 星一氏 歡迎會

來月六日マルトモホールで

暫らくの雌伏から捲土重來の再生に乘り出した星製藥王は昨年十月二十五日日本最初の國產品キニーネの生產並に輸出に關する商談の爲渡米紐育に於て大成功を收め、其の後伊、佛、英、獨及び蘇聯邦、滿洲の各國を歷訪、經濟、政治、宗敎各方面を視察研究、六十六日目を以て舊冬三十日無事歸朝したが、同氏はこの國家的事業完成を祖先に報告すべく來月六日錦村に歸鄕することになつた、同村同窓會では同氏の來訪を機とし『一戶必ず一人以上出席嚴守』の歸朝歡迎講演會を開く外、平町でも同氏後援會が主催となり六日（舊正三日）午後五時半頃よりマルトモホールに於て歡迎會を開催することになつた

淪落の深みを轉々する 凶作孃ならぬ豪家の娘

酌婦からダンサーを希望

前借踏み倒しの電報に 植田の實父が吃驚

華かなステージ生活に憧れた酌婦がレビュー團のダンサーを志望し前借を踏倒して龍ヶ崎署に捕へられた植田町四五松之助四女佐藤ヒサ（二九）は龍ヶ崎署の取調により資產三十萬圓を有する植田町豪家の愛娘であることが判明、二十五日實父松之助氏に引取方を龍ヶ崎署から打電し來たが、ヒサ子が淪落の淵に陷つた裏面には左の如き哀話がひそんでゐる

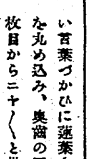
ヒサ子は二十一歲の時東京土木局技手島根縣生れ木佐謙次郎氏（當時二十七才）と結婚し二子まで生んだが、木佐氏が島根縣へ轉任となり實家に歸るや姑との折合惡しき爲離別となり長野縣中込驛前料理店高砂へ前借五十圓で住み込んだのを始めとして埼玉縣所澤町黑猫水戶市役所前珍や、石岡町辨天や助川町高砂、小川町大黑や、高濱町華月、土浦町二業地マスター等の料理店、カフェー等を轉々し遂に淪落の深みへはまつたもので

麻生町で興行中のレビュー團團長の妻君と同鄕の爲懇意して同團に加はり龍ヶ崎町に巡業したところ高濱町華月から前借踏倒しの告訴により捕へられたものである

◇…………

◇…………

艷罪黑白



◇湯豆腐の切り據から女給の立ち小便のスタイル迄およそ流線型で無いと虫が納まらぬ當今、三角關係の戀愛遊戲まで其の式で行く不了見ものがあるぞ變たて◇町の西方、火の見近く住んで柳暗花明に遊んでは常に藥水に親しむ男ありけり、男にあるまじき甘つたるい言葉づかひに藥女を丸め込み、奧商の三枚目からニヤ〳〵と世にも風ぞく壞亂な笑みを洩らすなどろくで無さ限り無し◇近ごろ之の男な中に、廿六と十九の藝者二人が人前もはゞからぬムキ出しの肉慾鬪爭を始めけるに男ます〳〵良い氣持になり、引つ搔くやら泣きわめくやら、猫の喧嘩染みた事するをながめ乍ら朝からヤニ下つてるぞ小面憎き◇今朝も今朝とて泊り込み露りに落ち合つた兩人が例の通り戰端を切つた揚げ句黑白の裁きを持ち込まれた男、立場上なつくると思の外◇カンラカラカラと笑ひ乍ら云ひけらく『笑はれるとサイに野菜は云ひなさんなお前さん達のやうな人氣商賣のお方にどつちが惡いと云はれますか』と許り如何にも凉しげにホカつて居たとやら

。。。。高坂校父兄會 內鄕村高坂小學校父兄會は昨二十五日午前十時から開き職業紹介所神長倉齋記の『小學卒業兒職業選擇上の注意』に關する講話、出席約七十餘名、尙明二十七日は好間小學校で開くので四家所長が出席の筈

。。。。母危篤倅何處？ 岩手縣西磐井郡一關町字東花王町七八左官職辰次郎長男鈴木信一（二七）は昨年十月四から日朝突然植田町人絹工場に出稼ぎに行くと稱して家出したまゝ行方を晦ましたが最近實母が馬に腹部を蹴られて生命危篤に陷つてゐるので辰次郎から今廿六日平署に同人の搜索願

。。。。高柳博士指定 平町白銀町耳鼻咽喉科醫師高柳博明氏は此程健康保險醫に指定された

。。。。腰拔け男の家出 內鄕村大字綴字高野作四二實の弟橋濟（三五）は昨年八月五日從東京市四谷區片町星野洋裁所の主家を出で行方不明になつたが同人は甲種合格籤外れで何時召集されるやも知れずと今廿六日茨城縣那珂郡菅谷村の兄實から平署に搜索願

四倉通信

。。。。菅波助役辭職 四倉町助役菅波千之助氏は去る廿五日病氣を理由に突然新妻町長のもとに辭職願を提出したので町長より百方留任を慫慂したが辭意固く到底飜意の見込が無い、氏は各方面から惜まれて居る、尙ほ同氏は昨年長男を失ひ、家庭的に惠まれぬ點多く同情を受けてゐる

。。。。添寢の母過失 湯本町吹矢齊物商熊谷幾太郞妻きよ（三二）は昨廿五日午前二時頃長男濟（一）に添寢中乳房で壓殺、過失致死罪で書類のみ送檢の筈

。。。。アグリ船鰯豐漁 四倉町菅波末吉氏所有のアグリ船が過去三ヶ月半に漁獲した鰯は三萬八千餘圓でこゝ四五日の內には四萬圓に達せしむべく意氣込んで居ると

廣告

磐城名物 靈峰羊羹（れいほうようかん） 小川鄕驛前 平屋賣店

松村醫院 院長 松村鐵郞 平町南町電一〇七

平町田町 井坂醫院 電話 五五九番

平町南町 增田耳鼻咽喉醫院 電話 四八二番

第六期末

昭和九年十二月卅一日現在貸借對照表

資產（借方）	金額
現金預ケ金	六、〇一八、一七九·七〇九
現金	四、五三一、九七八·九一九
預ケ金	一、四八六、二〇〇·七九〇
（內日本銀行ヘノ預ケ金）	（七〇〇、八六八·七三〇）
コールローン	二、四八〇、〇〇〇·〇〇〇
有價證券勘定	一〇、二一六、七三三·三九〇
國債	七、〇九三、五四四·四一〇
（內手許在高）	（二、八二六、五四三·二八〇）
社債	五三〇、〇一五·一五〇
株式	二、五九三、一七三·八二〇
割引手形勘定	一、七九一、九五〇·一四〇
商業手形	三三〇、九九〇·六九〇
荷付爲替手形	八五九、三三〇·一〇〇
受取手形	六〇一、六三九·三五〇
貸付金勘定	五八、六九七、四八九·七三〇
手形貸付	三四、二六八、二七九·七六〇
證書貸付	一五、三九二、三一九·三七〇
當座貸越	九、〇三六、八九〇·六〇〇
他店貸	五九九、八〇八·五七〇
支拂承諾見返	九六、三二三·五三〇
雜勘定	三二一、五六八·〇〇〇
假拂金	三二一、五六八·〇〇〇
動產不動產勘定	九、五七二、四六一·九五〇
營業用土地建物什器	二、三六五、三一六·二五〇
所有動產不動產	七、二〇六、一四五·七〇〇
株主勘定	四、五九三、六二五·〇〇〇
拂込未濟資本金	四、五九三、六二五·〇〇〇
合計	九四、三七九、〇六九·〇一九

負債（貸方）	金額
預金勘定	七五、九八〇、二八〇·六〇四
當座預金	一四、一〇二、五〇〇·一三三
特別當座預金	六、三六六、二二三·四〇四
通知預金	九四一、一〇八·〇七〇
定期預金	三九、九四六、一五一·四三七
別段預金	四、六〇四、三〇八·五八一
借用金勘定	五五〇、〇〇〇·〇〇〇
借入金	五五〇、〇〇〇·〇〇〇
コールマネー	五、七一〇、〇〇〇·〇〇〇
他店借	一、〇八九、七五二·四九〇
支拂承諾	九六、三二三·五三〇
雜勘定	一、〇三九、七二八·五五〇
未拂配當金	一五、五三三·〇五〇
未拂利息其ノ他	三九六、三四〇·四五〇
未經過割引料其ノ他	一四五、二〇三·二五〇
預金利子諸稅	三五、三五〇·七三〇
假受金	一二、二九一·二九〇
未拂送金爲替	二六九、三四七·七四〇
行員身元保證金	一六六、六三二·〇四〇
株主勘定	九、九一三、〇八四·七六五
資本金	九、〇〇〇、〇〇〇·〇〇〇
法定準備金	一八〇、〇〇〇·〇〇〇
任意準備金	二七〇、〇〇〇·〇〇〇
行員退職給與資金	一二五、〇〇〇·〇〇〇
當期利益金	三三八、〇八四·七六五
（內前期繰越金）	（八六、六四四·六六〇）
合計	九四、三七九、〇六九·〇一九

利益金處分	
當期利益金	三三八、〇八四·七六五
法定準備金	四〇、〇〇〇·〇〇〇
任意準備金	六〇、〇〇〇·〇〇〇
行員退職給與資金	三五、〇〇〇·〇〇〇
配當金（年四分ノ割）	八八、一二七·五〇〇
後期繰越金	一一四、九五七·二六五

右之通相違無之候也

昭和十年一月二十六日

仙臺市大町四丁目

株式會社 七十七銀行

取締役頭取 大庭經之輔
取締役副頭取 氏家清吉
專務取締役 中村□三
常務取締役 木村淸五郞
取締役 伯爵 佐久間俊一
取締役 谷井文三
取締役 小野惣助
取締役支配人 山田萬七
取締役 佐藤鐵郞
取締役 橫山勤助
取締役 伊澤平馬
常任監査役 助川三郞
監査役 八木久兵衛
監査役 福島禎藏
監査役 大庭彥六郞
監査役 工藤延治郞

追テ取締役全員昭和十年一月三十日任期滿了ニ付改選ノ結果何レモ再選重任ニ決シタリ

貸切り

專門優良車

乘心地の超特快適な三四年型デラツクスセダン着

何卒御用命願ひます

平町四丁目 鈴木自動車部 電話二一七番

二男浩二郞儀豫て病氣の處養生相叶不本日午前一時死去致し候此段生前辱知諸君に謹告仕候

追て葬儀は廿八日午後二時同字光西寺に於て執行可致候

一月廿六日

鹿島村御代

父 八代公行

外 親戚一同